

### アイルランド

家庭内の聖堂で使われてい たとされる、赤い色のランプ。 1830年代に製作されたもので、 祭壇の脇に灯火をともすための 儀礼用のものと思われる。

H16 x W7.7 x D7.4

H0121740



カーバイドランプ。固形のカル シウムカーバイドと水を反応させ、 発生したアセチレンガスに火を つける。燃料の扱いが容易なた め、携帯用の照明として発達し た。なお集光のための反射板は 失われているようである。 H34 x W7.4 x D9.4

H0150959



#### モロッコ

H0168906

モロッコ都市部の富裕な家 庭で用いられていたとされる、 黄銅製のろうそく立て (燭台)。 このような7つの枝の燭台は メノラーとよばれ、ユダヤ教の 儀礼に用いられる。 H33 x W21 x D13



トマト缶から作られた灯油ランプ。トマト缶は砂糖な どを量り売りする際の計量器としても用いられるが、 加工もしやすいため、このランプのようにさまざまな 製品に使われている。風よけのガラスはなく安価。 H8.0 x W7.2 x D5.7 H0267565

## イラン

H0007742

屋内照明用のランタン。真鍮 にほどこされた造形と透かし 彫りが美しい。西アジアの家 屋は熱暑を避けるために窓や 入り口などの採光部が小さく、 そのためさまざまな屋内照明 具が発達した。 H139 x W49 x D48



た装飾用のランプ。このよう な人形はエジプトではアルー サ(花嫁人形)とよばれ、預 言者生誕祭に女の子に贈ら れる砂糖菓子にも見ることが できる。

H53 x W24 x D18 H0109502



# ネパール

ポン教の儀式で用いられる儀礼 用具のひとつ。カップに溶かした バターと芯を入れて、灯火をともす。 H11 x W8.5 x D8.5 H0269431



日本(長野県)

どに用いられた。

H0018471

H48 x W17 x D17

行灯 (あんどん)。 アチックミューゼアムのメ

ンバーによって集められた甲信越地方の民

具のひとつ。持ち手が付き、見廻りなど屋

外で使われていたものと思われる。行灯は

電灯が普及し始めた後にも、寝室の照明な

# 集めてみました世界の

# 丸川 雄三 民博 先端人類科学研究部

闇を照らす「あかり」は、古代より人びとの暮らしに欠かせな いものである。人間は長いあいだ蝋や油などに火をともして、そ の灯火を照明や儀礼に用いてきた。ゆらめく炎が私たちにもたら す安心感は、時を超えて心に刻まれ続ける人類共通の記憶のひ とつと言えるだろう。

今回あつめたみんぱくの標本資料も、いずれも火を光源とする ものである。照明としてのあかりは、今はLEDなどの電気照明 に替わられつつあるが、あかりを必要とする場面や用途は、昔と 今とでそれほどの違いはないようである。

※寸法の単位はセンチメートルです。



影絵芝居 (ワヤン・クリット) の上演用のラ ンプ。やしの油のゆらめく炎が白い布に人形 の影をつくり、神々や道化の物語を人びとに 見せてくれる。つり手にはナーガ(蛇神)の 装飾がほどこされている。

H37 x W30 x D27 H0006806



# ボリビア

明け方、まだ暗いとき、ラテックス採取人 がゴムノキの幹に切り目を入れるときに照 明として用いる携帯用ランプ。両手で作業 をおこなうため、頭にかぶるようにできて いる。燃料はケロシン。

H29 x W18 x D19 H0213381



